

強者の戦略

あけましておめでとうございます。国語科の松崎です。いよいよセンター試験目前、ひたすら二次試験とセンター試験の過去問に取り組んでいるという人、単語を必死に詰め込んでいる人、さまざまかと思いますが。私も受験生の時には世界史の用語集と戦いつつ、新年を迎えました。そして、風邪を引かないように完全防備して近所の神社に初詣へ。ちゃんと絵馬も書きました。今思えば、その神社は「商売時繁盛」の神様だったのでどこまでご利益があったのか…。

話が脱線してしまいました。受験もう間近。各々の課題がクリアできるかどうか、今年度最後の国語の問題にチャレンジしてみてください。

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

〔A〕 みちのくにの白河の関こえ侍りけるに

(イ) たよりあらばいかで都へつげやらむけふ白河の関はこえぬと 平兼盛（拾遺集）

〔B〕 正月二日逢坂にて鶯の声をききてよみ侍りける

ふるさとへゆくひとあらばことづてむけふ鶯の初音ききつと 源兼澄（後拾遺集）

〔C〕 逢坂の関にて鶯の初音をききていとをかしければよめるか。(ロ) さらば逢坂といふことあるべし、さら
ずはさせることなし。 兼盛がけふ白河の関はこえぬとよめるは、みちのくにはいとはるかなる所の白河の関
までゆきて、都へつげやらむとよまれたればこそをかしけれ、これはかれをまねびたるが、おとりたればみ
ぐるし。(ハ) なほつげまほしうは、ともの人ひとりしてつげにおこせむ、いとやすきことにはあらずや。

（難後拾遺）

（注）

○白河の関——陸奥への関の一つ。歌枕。

○逢坂の関——近江と山城の境にあった関。京からここを越えて東路にかかる。歌枕。

問（一） 傍線部（イ）「たよりあらばいかで都につげやらむ」を現代語に訳せ。（解答欄：14.3×3センチ）

問（二） 文章〔C〕は歌〔B〕に対する批評である。批評の要点の一つは歌〔A〕が白河の関を今日越え、
歌〔B〕が、逢坂の関で今日鶯を聞いたという、歌枕の地での経験を述べている点では同じであ
りながら、その歌い方が異なる、ということにある。

（1） 傍線部（ロ）のうち、「さらずはさせることなし」を、文脈上わかるように現代語に訳せ。（解答欄：
13.3×2センチ）

（2） 傍線部全体に語られている批評を解説せよ。（解答欄：13.3×5.5センチ）

問（三） 文章〔C〕の、歌〔B〕に対する批評のもう一つの要点は、傍線部（ハ）に語られている。

（1） 傍線部（ハ）のうち、「なほつげまほしうは」を現代語に訳せ。（解答欄：13.3×2センチ）

（2） 傍線部（ハ）の全体に語られている批評を解説せよ。（解答欄：13.3×5.5センチ）